



1. 中国の新型コロナ感染症白書を読む

高橋 博

2. インフォデミックとしてのコロナ狂想曲

矢吹 晋

<http://www.21ccs.jp/>

## 特集 1

# 中国の新型コロナウイルス感染症白書を読む

高橋 博

(21世紀中国総研主任研究員)

2020年6月77日、中国国務院新聞弁公室は「新型コロナウイルス肺炎を迎え撃った中国行動白書（原文は「抗撃新冠肺炎疫情的中国行動（白皮書）」（全文3万7296華字。以下「白書」と略称）を発表した。

合わせて、二つの白書紹介記事も発表された。

「白書：中国はコロナウイルスに対処するための援助を、すでに、あるいは現在150の国家と4国際組織に提供している」（原文は「白皮書：中国已經或正在向150個国和4個国際組織提供抗疫援助」）（全文480華字）

「白書：400万名の社区工作者が全国65万の都市・農村社区で奮闘した」（原文は「白皮書：400万名社区工作者奮戰在全国65万個城郷社区」）（全文529華字）。

## （1） 新型コロナウイルス感染症白書発表の狙い

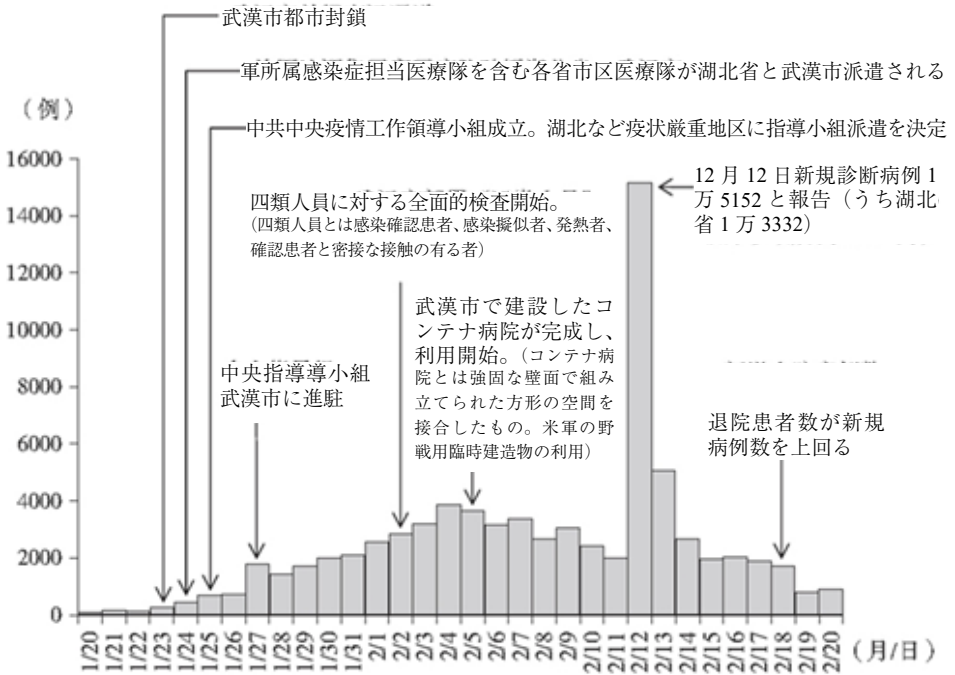
白書発表の背景としては、新型コロナウイルスの感染拡大が基本的に制圧されたことが挙げられる。新型コロナウイルスで最も甚大な被害を受けた武漢市を見てみよう。

5月14日から6月1日まで行われた全市民1100万名を対象とする検査で、無症状感染者300名の存在が明らかになった。しかし、これら300名の患者は、ウイルスの分離培養検査の結果、他人に感染する力のないウイルスであることが確認されたという。

また同市の病院で治療中だった最後の新型コロナウイルス患者3名も、6月3日に2回目のPCR検査で陰性と判断されて退院した。これで、新型コロナウイルス患者は全市から完全に姿を消した。

5月上旬に吉林省舒蘭市と吉林市で見つかった新型コロナウイルス患者も、コロナ第二波の襲来かと国内外で注目されたが、両市の衛生健康委（以下、武漢市衛生健康委員会は武漢衛生健康委、湖北省と国家の衛生健康委も同様に湖北衛生健康委、国家衛生健康委と略称）と中央派遣の指導組による極めて厳しい封鎖措

図1 中国国内の新型コロナウイルス感染症の新規診断状況(1月20日～2月20日)



置によって状況が急速に改善された。

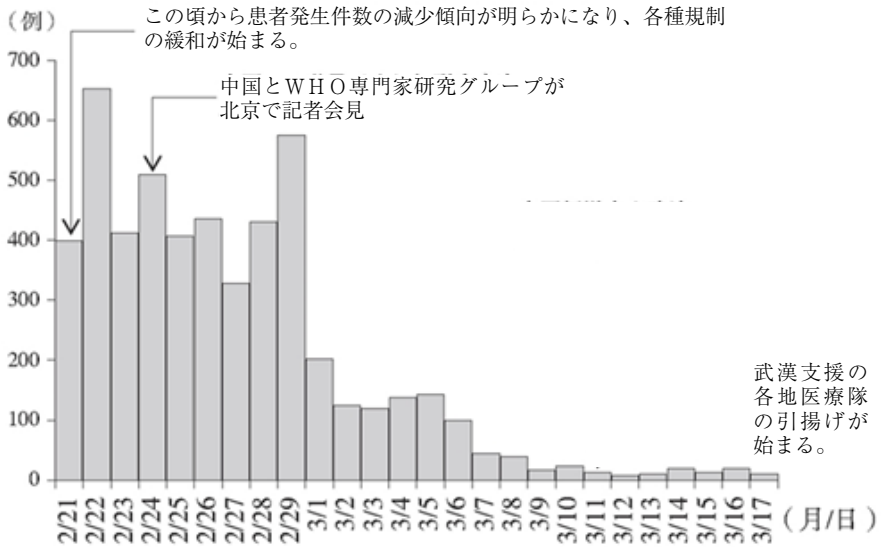
2020年6月16日に吉林省政府が発表した「吉林省新型コロナウイルス流行状況分布図」によると、6月15日現在で感染者総数155名、うち死亡者2名、治療者153名と同省の新型コロナウイルス流行を完全に制圧している。

例えば、6月8日の発表によると、ウイルス感染者と濃厚接触者(家族および同僚などを指す)は1627名であり、うち1614名が治療を経て医学観察対象から外され、残りの13名が指定箇所での医学観察中と報告されている。すなわち、感染者の10倍以上の濃厚接触者が検査・治療を経て、指定された場で医学的観察を受けていたのである。

新型コロナウイルスの脅威は甚大である。ただし、吉林省で発生したコロナ騒動は5月上旬で、約1カ月で基本的に制圧した。これは、武漢などでの経験を生かした、極めて厳しい統制が厳格に実施された結果だと銘記すべきだろう。こうした措置は、日本ではやはり実行できないだろう。

吉林の次は北京、その次は？ 吉林省の制圧成功を待っていたかのように、6月11日には首都北京市民の副食品を扱う農水産品の卸売市場で、新型コロナウイルス感染者が発生した。市場全体を検査した結果、水産物作業場の魚類用の俎

図2 中国国内の新型コロナウイルス感染症の新規診断状況(2月21日～3月17日)



板で新型コロナウイルスが発見され、その組板でサーモン解体処理を行っていたこと、またウイルスが欧州種であることが判明したと伝えられた。そのため、犯人扱いされた輸入サーモンに対する警戒心が全国的に高まり、中国各地で輸入サーモンを売り場から撤去する騒ぎになった。

だが、15日にはウイルスが欧州種とする説は未確認だという専門学者の指摘があり、輸入サーモンの輸送中、あるいは卸売市場到着後の作業過程における保菌者との接触、さらにサーモン解体者が保菌者だった可能性も否定できないなど、原因の解明は振出しに戻っている。

中国では肉類から水産物まで多くの食料を冷凍状態で輸入している。輸入冷凍食品による新型コロナウイルス伝染があり得るとなると、簡単な問題ではなくなり、慎重な検査・分析が進められているようである。7月中旬現在で原因不明のままである。

ヒト以外に犬・猫に感染することが判明しているが、魚類にも感染するのか否か？ 冷凍状態でウイルスの生存時間などはよく分かっていない。輸入冷凍食品に対する検査が強化されている。(冷凍状態でウイルスの生存時間はシベリア永久凍土で発掘された数万年前の動物死骸に付着した当時のウイルスが生存していたニュースがあるように長い場合は数万年以上になるが、一般の冷凍食品では数時間から数日程度と見た方が良いでしょう。なお、魚類にウイルスは感染しないが、保菌者がウイルスを付着させた場合は論外で、一般にウイルス

図3 中国国内の新型コロナウイルス感染症の新規診断状況(3月18日～4月28日)

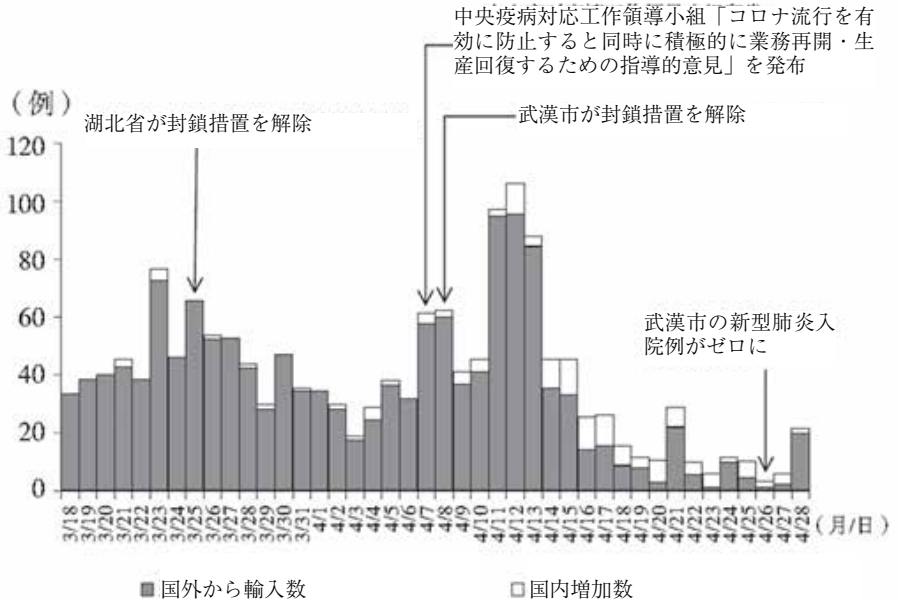
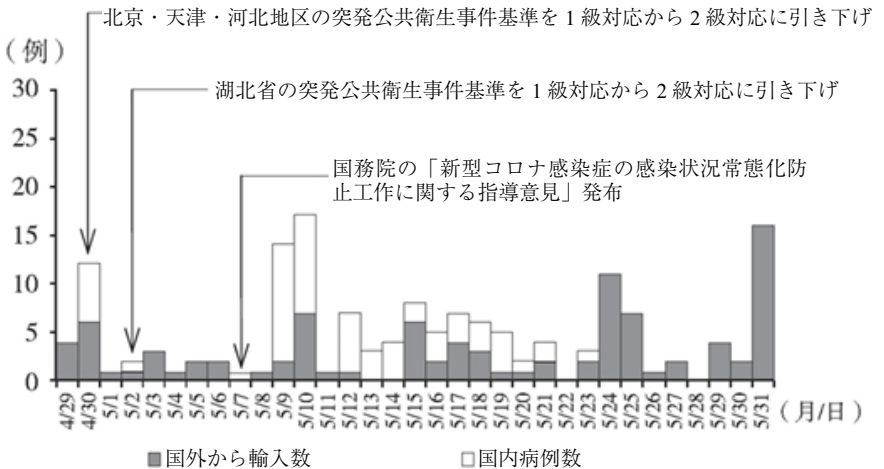


図4 中国国内の新型コロナウイルス感染症の新規診断状況(4月19日～5月31日)



は低温湿潤の場所を好み長く生存するが活性力は低下すると言われている)

輸入冷凍食品によるウイルス感染は中国国内だけに留まらず、日本にも大きく関係する世界的な問題であり、結果が注目される。

今回、北京にあらわれたウイルスは、武漢のウイルスと比較して伝染力が強力になっているという指摘がある。新型コロナウイルスも日進月歩の世界を渡り歩いているのだろう。

全体的に見れば、北京市の果敢かつ迅速な措置で、感染者は基本的に一部地域に封じ込められた。吉林省や遼寧省など地方に伝播したものの、6月11日前後に北京に旅行あるいは北京から来訪した者の多くが特定されているようなので、大きな蔓延にはならないのではないだろうか。6月13日の『人民網』の報道によると、13日現在の北京市のPCによる検査可能な場所は98カ所で、一日当たり最大検査能力は9万人以上で、準備も十分整っている。

## (2) 勝利の雄叫びと疑惑への弁明

中国での新型コロナウイルス感染症の第一波は、湖北省、特に武漢市が犠牲となって食い止めて全国への蔓延を阻止した。その後の吉林省などの第2波も萌芽状態で制圧したことになる。これそが6月7日の「白書」発表の最大の理由ではないか。

米国・西欧などの世界の先進国が新型コロナウイルス対策で苦しんでいる。ここ数年来政治・経済・軍事面で中国に対し巨大な圧力をかけ続けている米国は、新型コロナウイルスにより世界で最大の被害を受けている。このタイミングで中国が新型コロナウイルスに対して勝利宣言するのは、中国の政府・国民にとっても大きな喜びとなり、またこの勝利を指導した党中央に対する信頼と支持を高めるものになると「白書執筆者」たちが考えているのは間違いない。

白書発表の理由はそれだけでない。

白書では中国内での新型コロナウイルスとの闘争を系統立てて紹介し、同時にそれによって受けた武漢を中心とした湖北省および中国各地の被害と犠牲を明らかにすることによって、西側諸国が強めている猜疑心と警戒心を解こうとしているのではないだろうか。

## (3) 白書の本当の作成者は中央宣伝部

白書は全文3万7296華字とかなりの長文である。白書を発表した国務院新聞弁公室は国務院所属機構だと見做されがちだが、実は国務院機構名簿に国務院新聞弁公室は記載されていない。

例えば、「中国政府網」にある国務院組織機構の「国務院弁事機構」にあるのは国務院港澳（香港・マカオ）事務弁公室と国務院研究室の2機構だけだ。国務院新聞弁公室の名称は但し書きの最後に「国務院新聞弁公室」は中央宣伝部に名義を置いている」と記されているにすぎない。

中国共産党の記録を見ると、1991年1月に中共中央は従来の「中央対外宣伝小組」を「国務院新聞弁公室」の名称で国務院に置いている。当時、同機構は対内面では「中央対外宣伝小組」、対外面では「国務院新聞弁公室」の2枚看板を掲げていた。その後「中央対外宣伝小組」は「中央対外宣伝弁公室」に名称を変更。その「中央対外宣伝弁公室」は「国務院新聞弁公室」と1機構・2名称の機構として、中共中央直属の中央宣伝部の管轄下に入っている。

要するに、この白書は国務院発表となっているが、実際には中共中央宣伝部の手になるものなのである。

#### (4) 「白書」の構成

「白書」の構成を見ると、最初に目次と前言（559華字）がある。

第1章「新型コロナウイルスと戦った中国の苦難に満ちた歩み」(1万4382華字)

第2章「感染防止と治療の2つの戦線での共同作戦」(8895華字)

第3章「新型コロナウイルスと戦う強力な力の結集」(6721華字)

第4章「人類による衛生・健康・共同体を共に構築する」(5657華字)

以上の4章で構成されている。そして、各章がそれぞれ5節から3節で成り立ち、最後に「終わりに」(375華字)と「注」で締めくくっている。

全体で3万7296華字とすこぶる長文なので、ここでは最も物議を醸しそうな第1章の最初の節を中心に紹介し、第2章以下では日本にも参考となる点に重点を置いて簡単に紹介する。

#### (5) 「白書」前書き

白書全体としては新型コロナウイルスと戦った経緯を系統的に整理・総括している。戦いの記録として世界各国、特に欧米諸国に提供したものと見てよい。

新型コロナウイルス感染症は、ここ100年来に人類が遭遇したパンデミックだとしている。全世界に対する重大な危機と厳しい試練であって、人類の生命と安全、健康に重大な脅威を与えていると指摘し、次のように強調している。

これは全人類とウイルスの間の戦争である。この戦いの中で14億の中国人民が粘り強く団結して戦い、心を合わせて強固な防衛線を築き上げ人民の偉大な力を強く示した。中国は法に基づいて公開と透明性を維持し、責任を負う態度で最

も早く国際社会に新型コロナウイルス流行の情報を通報し、何一つ包み隠さずに各方面と感染防止と治療の経験を共有した。

中国は新型コロナウイルスの流行が各国人民にもたらした苦難を身に染みて感じ取り、国際社会にでき得る限りの人道主義的援助を提供して、流行病と戦う全世界を支持している。中国はウイルスに生命を奪われ、流行の中で犠牲となった人々に深い痛惜の情を示すとともに、分秒を争って生命を救い、流行を制圧している人々に深い敬意を表明する。中国は国際社会が共に心を合わせ、相互に助け合ったならば必ず伝染病に打ち勝ち、人類発展のより美しい明日を迎えることが出来ると確信している。

伝染病と戦った中国人民の偉大な歴史を記録し、中国が伝染病と戦った経験と方法を国際社会と共有し、全世界の伝染病と戦おうとする中国の理念と主張を明らかにするため、中国政府は特にこの白書を発表する。

## (6) 5段階にわたったウイルスとの戦い

新型コロナウイルス感染症は、伝染スピードが最も早く、感染範囲が広く、制圧難度が困難な、重大突発公共衛生事件であり、中国の危機、大きな試練であった。

党と国家の重視と迅速な行動、習近平総書記自らの指揮と配置、果敢な決定によって人民の信頼が高まり、力が凝縮され、方向が定まった。また、1カ月余で流行蔓延の勢いを基本的に阻止し、2カ月前後で大陸全土の1日の新規感染者数を1桁以内に抑え、3カ月ほどで武漢市と湖北省の防御戦で決定的な成果を挙げた。

戦いが始まった12月27日から決定的な成果を挙げた5月末までは、第1段階から第5段階に分かれる。

- ①第1段階 (2019年12月27日～2020年1月19日)
- ②第2段階 (1月20日～2月20日)
- ③第3段階 (2月21日～3月17日)
- ④第4段階 (3月18日～4月28日)
- ⑤第5段階 (4月29日～5月下旬に開催された第13期全人代第3回会議と全国政協第13期第3回会議まで)

第1段階は、2019年12月27日～2020年1月19日の事項を月日順に列記している。第1段階では「湖北省武漢市は原因不明の肺炎の症例を発見すると直ちに流行状況を報告。同時に病因と流行病の面から調査を行い、流行の蔓延を阻止して世界保健機関(WHO)や米国などの国家に症例情報を通報し、新型コロナウイルスの詳細を世界に向けて発表した。武漢地区の一部社区で発見された伝播性を持つ症例は、その他地区にも出現したため、中国は新型コロナウイルス対策を全面的に展開したと述べている。



12月27日：湖北省中西医结合医院が武漢市江漢区疾病センターに原因不明肺炎患者について報告、その報告を受け武漢市が専門家を組織して調査し、ウイルス性肺炎と断定した。

12月30日：武漢衛生健康委は管轄下の医療機構に「原因不明肺炎治療活動の緊急通知」を送付。国家衛生健康委も報告を受けて研究開始。

12月31日：国家衛生健康委、工作組と専門家組を武漢に派遣。

2020年1月1日：国家衛生健康委、伝染病流行対策処理領導小組（原文は疫情応対処置領導小組）設立。

1月3日：国家衛生健康委、中国疾病予防制御中心（原文は「中国疾病予防控制中心」。以下「CDC」と略称）など4科学研究機関を組織して病例見本に対する検査測定を開始。同日以降、中国の関連方面は定期的にWHOおよび関連諸国と地域組織、香港・マカオ・台湾地区に通報。

1月4日：中国CDC責任者（高福主任と推定される）が米CDC責任者（当時の米CDC所長ロバート・R・レッドフィールドと推定される）に電話で感染流行の状況を連絡。双方は情報連絡と技術協力など密接な連携保持に同意。

1月5日：武漢衛生健康委が、59例の原因不明ウイルス性肺炎の病例検査測定によって、原因不明ウイルスがインフルエンザ、鳥インフルエンザ、SARS、MERS等とは異なるウイルスと判定、WHOに通報、WHOは同情報を公表。

1月7日：習近平が主宰する中央政治局常務委員会「原因不明肺炎」について協議。中国CDCが新型コロナウイルスのウイルス種分離に成功。

1月8日：国家衛生健康委の専門家がウイルス種を確認し、中米CDCの責任者が電話で技術交流について協議。

1月9日：国家衛生健康委が新型コロナウイルス種と判断した旨、WHOに報告。

1月10日：中国CDC、中国科学院武漢ウイルス研究所等の専門機関にPCR検査キットを配布。

1月11日以降：中国はWHOに毎日流行状況を伝達。

1月12日：武漢衛生健康委、「新型冠状病毒感染肺炎」の名称を使用。中国CDC、中国医学科学院、武漢ウイルス研究所、ウイルス情報をGISAID（インフルエンザウイルス遺伝子データベース）に提供。

1月13日：國務院全体会議、流行病対策を協議。国家衛生健康委、湖北省と武漢市の防疫対策強化を指示。

1月16日：PCR検査キットを完成し、武漢市の69カ所の医院で検査開始。

1月17日：国家衛生健康委、7監督指導組を各地に派遣。

1月18～19日：国家衛生健康委、高級専門家チーム（鍾南山・李蘭娟）を武漢に派遣。同チーム、「人传人」感染を確認。

## (7) 新型コロナウイルス感染症の「発見」

湖北省中西医結合医院は武漢市華南海鮮市場近辺に位置し、ベッド数 1200 床を有する西洋・漢方医療を総合した大型医院である。

同医院の呼吸・重症医学科主任の張継先医師が 12 月 26 日に発熱と咳で来院した老夫婦と子供を診察、肺部 CT に映った陰影から原因不明の肺炎と診断し医院上層に報告。28、29 日に来院した 3 人も同様の症状で CT の陰影も同一であったので医院上層に再度報告。医院が武漢市江漢区疾病センターおよび市・省の衛生健康委に報告。

報告を受けた省と市の衛生健康委は 12 月 29 日、休日にもかかわらず武漢市疾病センターに伝染病医療を専門とする武漢金銀潭医院と江漢区疾病センターが中西医結合医院と協力して流行病の医学調査を開始するよう指示。この調査・検査測定によって原因不明肺炎患者が新型コロナウイルス感染症と診断されることになった。

なお、これによって武漢で発見された第 1 号のコロナ患者は張継先医師が報告した患者ということになり、これ以前に伝えられていた患者はウイルスの存在が確認されていない段階での診断ということで、新型コロナウイルス前の原因不明患者として処理されるのだろう。

この間の経緯は次のアドレスで閲覧できる。長安街知事 =

([https://www.thepaper.cn/newsDetail\\_forward\\_689131](https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_689131))

最も早く伝染病と診断し上部に報告した女医張継先 (澎湃新聞) =

([https://www.thepaper.cn/newsDetail\\_forward\\_5739371](https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_5739371))

中国第 1 号とされる新型コロナウイルス患者は、以前伝えられていた 2019 年 12 月 8 日～12 日に新型インフルエンザ患者が発生したという武漢衛生健康委の公式発表との整合性に矛盾があるが、新型コロナウイルスの存在が確認された後に診断されたことが決め手となったようである。

筆者は、第 1 号患者の探索は意味がないと思っていた。なぜなら、新型コロナウイルスの存在が確認されるまでは、たとえ真正銘の新型コロナウイルス患者であっても「原因不明の肺炎患者」あるいは「原因不明の高熱患者」として処理せざるを得ないからである。筆者が白書でこの部分を読んで最初に感じたことは、これで中国はまた「真実を隠している」と欧米諸国から非難されるのではないかということだった。しかし、これは明らかに勘違いである。なぜなら、新型コロナウイルスが発見され、分離され、検査され、全く新たなウイルスだと確認され、その症状や特徴、診断方法が公式に発表されるまで、たとえ本物の新型コロナウイルス肺炎患者でも、それを断定できる医師がいないからである。

言葉を変えると、数十例・数百例の患者をあらゆる角度から診察し、さまざま診察機器を用いて全く新しい病気であることを確かめ、病名を定めてから初め

て正しい診断が下せるからである。スペイン、イタリアの多くの優れた医師たちも最初は正しい診断を下せず、恐らくは中国武漢の医師たちのように原因不明の肺炎、原因不明の高熱患者と診断書に記さざるを得なかったのではないだろうか。

これは米国も同様である。米国で昨年夏から流行したインフルエンザ患者の中には、新型コロナウイルス肺炎患者が混在していたと米国の専門家が認めている。

今回の白書のように、ウイルスを分離して新たなウイルスであると確認した時点を「起点」とすれば面倒な説明や証明は不要になる。12月27日以前に診察を受けた患者については「新型コロナウイルス前史」として、状況が落ち着いた後にゆっくりと研究すれば良いという話になるのではないだろうか。

ただし、筆者は今回の白書の内容については若干の疑問がある。全体的に余りにも習近平総書記の功績を称賛した「感恩」の押し付けになっていると感じるためである。

## (8) 新型コロナウイルスを巡る米中関係

### 第1段階：中国での伝染病流行について電話通報

香港の大陸系新聞『大公報』は4月1日に『ニューヨークタイムズ』、ロイター、APなどの報道を総合した記事の中で、「今年1月上旬にレッドフィールド米CDC所長と中国CDC主任高福は中国での伝染病流行について電話し、1月7日に『緊急事件管理メカニズム』を設立した」と伝えている。これが第1段階、第2段階は米中蜜月、第3段階は別れ話である。

### 第2段階：米中蜜月

伝染病蔓延の勢いを基本的に阻止(1月20日～2月20日)。中共中央が新型コロナウイルス肺炎流行対策工作領導小組(組長=李克強)を設立。湖北省など流行危険地区に指導組を派遣。全国から資源と人力を集中して湖北省都武漢市を支援。

(対外関連：米国10件、WHO2件、その他諸国とWHO1件。その他諸国は⑨参照。)

① 1月22日：国家衛生健康委は米国国内で最初の新型コロナウイルス患者病例を発見したとの通報を受ける。

② 1月27日：国家衛生健康委責任者は要請に応じて米保健福祉省(HHS)責任者と電話で当面の新型コロナウイルス肺炎の防御活動について交流。

③ 1月30日：国家衛生健康委は公式ルートを通じて、米国のWHO連合専門家グループ加入を歓迎すると連絡。米側は同日中に感謝を表明。

④ 2月2日：国家衛生健康委責任者は米HHS責任者に書簡を送り、双方間の衛生および伝染病予防の協力について再度意見を交換。

⑤ 2月4日：中国CDC責任者の要請に応じて米国家過敏症・伝染病責任者



新华社北京6月7日电 国务院新闻办公室7日发布《抗击新冠肺炎疫情的中国行动》白皮书。全文如下：  
抗击新冠肺炎疫情的中国行动（2020年6月）中华人民共和国国务院新闻办公室

#### 前言

#### 一、中国抗击疫情的艰辛历程

- (一) 第一阶段：迅即应对突发疫情
- (二) 第二阶段：初步遏制疫情蔓延势头
- (三) 第三阶段：本土新增病例数逐步下降至个位数
- (四) 第四阶段：取得武汉保卫战、湖北保卫战决定性成果
- (五) 第五阶段：全国疫情防控进入常态化

#### 二、防控和救治两个战场协同作战

- (一) 建立统一高效的指挥体系
- (二) 构建全民参与严密防控体系
- (三) 全力救治患者、拯救生命
- (四) 依法及时公开透明发布疫情信息
- (五) 充分发挥科技支撑作用

#### 三、凝聚抗击疫情的强大力量

- (一) 人的生命高于一切
- (二) 举全国之力抗击疫情
- (三) 平衡疫情防控与经济社会民生
- (四) 14亿中国人民坚韧奉献守望相助

#### 四、共同构建人类卫生健康共同体

- (一) 中国感谢和铭记国际社会宝贵支持和帮助
- (二) 中国积极开展国际交流合作
- (三) 国际社会团结合作共同抗疫

#### 结束语

[http://www.gov.cn/zhengce/2020-06/07/content\\_5517737.htm](http://www.gov.cn/zhengce/2020-06/07/content_5517737.htm)

と電話で伝染病流行情報について情報交流。

⑥ 2月8日：中米両国衛生部門の責任者、米専門家の中国—WHO 連合専門家考察団参加問題で再度意見交換。

⑦ 2月11日：中国CDC 専門家、要請に応じて米CDC 流感部門の専門家と電話会議を開催し、伝染病流行の予防と防御について協議。

⑧ 2月13日：米HHS 関連責任者が中国衛生健康委責任者に書簡を送り、双方間の伝染病流行防御協力などで意見交換。

⑨ 2月16日から：中国・ドイツ・日本・韓国・ナイジェリア・ロシア・シンガポール・米国・WHO の25名の専門家で構成された中国—WHO 連合専門家考察団が北京・成都・広州・深圳・武漢などを現地視察。

⑩ 2月18日：国家衛生健康委は米CDC に書簡を送り、双方間の伝染病流行防御協力などについて意見交換。

### 第3段階以後：米中離反と冷え込み

中国本土の新規増加病例一桁に（2月21日～3月17日）：湖北省と武漢市の流行は基本的に制圧され、全国は全体的に平穏化し、3月中旬の新規増加病例は一桁に減少して重要な成果を挙げる。対外関連：WHO = 3件のみで、その他なし。

武漢と湖北省の防衛戦で決定的勝利（3月18日～4月28日）：武漢市と湖北省の『封城』規制が4月8日に解除され、武漢と湖北のコロナ大作戦が勝利し、全国的に感染が局部的かつ小規模な発生に留まり、逆に海外からのウイルス伝播が目立ち始めた。中共中央は情勢の変化と発展を把握して「外部からの潜入を防ぎ、内部ではぶり返しを防ぐ（原文は「外防輸入、内防反彈」）」策略を定め、生産復興と海外中国公民への関心を表明。

対外関連：米国、WHO 共になし、アセアンと中日韓（10 + 3）新型コロナウィルス対策首脳テレビ会議。

4月14日、李克強総理、北京で開催のアセアンと中日韓（10 + 3）新型コロナウィルス対策指導者特別会議で講話。

全国で伝染流行の予防制御を常態化する（4月29日～両会開催）

国内の流行は全体的に散發の状態、一部地区に散發的なクラスターが発生している。海外からのウイルス伝播は基本的に抑制され、全国での予防制御が常態化している。対外関連：WHO のみ1件。

以上を見れば分かるように、米中間の接触は第2段階末期で途切れている。米国内の新型コロナウィルス患者が急増してトランプ大統領の立場が弱体化したためだろうか。本来は患者急増に対処するため、中国の経験と対策を参考とすべき最も重要な時期に米中関係は急速に冷え込んでいる形である。